



伊藤大輔監督無声映画傑作選

日本映画史に残る貴重な三本を活弁上映 + 浪曲特別口演



忠次旅日記 ちゅうじたびにつき

斬人斬馬剣 ざんじんざんばけん

御誂次郎吉格子 おあつらえ
じろきちこうし

2022年

10月9日(日)

10日(祝)

血湧き肉躍る!
圧倒的な醍醐味



坂本頼光



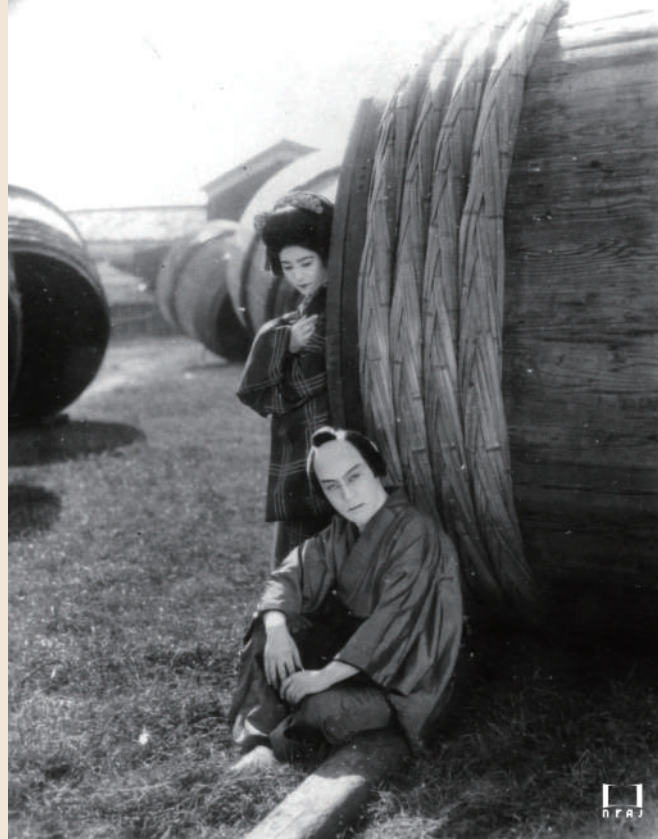
沢村美舟



玉川奈々福

発掘された“幻の映画” 忠次旅日記

1927年(昭和2年)に製作され、戦後、フィルムが現存しない「失われた映画」として、語り継がれてきた伝説的名作『忠次旅日記』のプリントが、1991年に広島市の民家の物置で発見された……それは、映画界のビッグ・ニュースであった。全三部のうち、二部と三部にまたがる部分が残されたもので、それを国立近代美術館フィルムセンター(現・国立映画アーカイブ)が修復し、ついに陽の目をみることになったのだ。今回の上映は、それをデジタル化し、若干の解説を補足した1時間51分版である。



国定忠治は、江戸末期の侠客として「日本で最も知られるアウトロー」である。上州(じょうしゅう…現在の群馬県)・国定村に生まれ、情に厚い気質から天保の大飢饉で苦しむ農民を救済するなどして、大親分として慕われた。お上(かみ)に追われる身となって、赤城山にこもった後、「赤城の山も今宵限り」(新国劇で有名となったフレーズ)と山を降り、信州(長野県)・越後(新潟県)など一円を、身を隠して逃走しつづける。だが上州に再び帰還した時、体は中風(ちゅうぶ)に冒され、その命運は尽きていた…。『忠次旅日記』は、〈甲州殺陣篇〉〈信州血笑篇〉〈御用篇〉



からなる三部作としてつくられたが、現存するのは、〈信州血笑篇〉の一部と〈御用篇〉のかなりの部分ということになる。全体のおよそ三分の一に過ぎない「部分」だが、それが逆に「未見の全体」への想像をかきたて、ヒリヒリする緊張を、私たちに与えるものになっている。伊藤大輔監督と主演の大河内伝次郎は、いずれも29歳の若手として、当時の時代劇の常識を打ち破る斬新な演出・演技によって、日本映画の頂点に立つ傑作をものにした。1959年の『キネマ旬報 夏の特別号』に掲載された「日本映画六十年を代表する最高作品ベスト・テン」では、堂々第一位に選出されている。

●今回上映版の作品データ 国立映画アーカイブ所蔵作品
『忠次旅日記 第二部 信州血笑篇』1927年/日活大將軍
『忠次旅日記 第三部 御用篇』1927年/日活大將軍
原作・脚色・監督:伊藤大輔 / 撮影:渡海六蔵(血笑篇)・唐沢弘光(御用篇) / 白黒スタンダード / 無声 / 1時間51分
出演:大河内伝次郎(国定忠次)、中村英雄(勘太郎)、中村吉次(壁安左衛門)、阪本清之助(三ツ木の文蔵)、磯川元春(沢田屋喜兵衛)、沢蘭子(お糸)、村上英二(銀次郎)、秋月信子(遊女信夫)、尾上華文(鷺津の音蔵)、中村紅果(岩鉄)、市川百之助(高崎の重吉)、浅見勝太郎(保積の卯之助)、尾上卯多五郎(お釈迦の源次)、嵐亀三郎(お茶を選ぶ老人)、嵐璃左衛門(中山精一郎)、伏見直江(お品)



国立映画アーカイブ所蔵作品 1929年/松竹京都/原作・脚本・監督:伊藤大輔 / 撮影:唐沢弘光 / 白黒スタンダード / 無声 / 26分(現存) 出演:月形龍之介(十時来三郎)、金子弘(長曾根)、天野羽一(左源太)、市川庚寅(住持徹全)、井上晴夫(城主伴良)、伊久田太郎(嗣子松若丸)、一ツ橋八重子(庶子竹若丸)、伊藤みはる(愛妾 杉の方)

御逃次郎吉格子

おあつらえじろきちこうし



1931年/日活大泰 / 原作:吉川英治 / 脚本・監督:伊藤大輔 / 撮影:唐沢弘光 / 白黒スタンダード / 無声 / 1時間13分 / 提供:マツダ映画社 出演:大河内伝次郎(次郎吉)、伏見直江(お仙)、伏見信子(お喜乃)、高勢実乗(仁吉)、山本礼三郎(与力・重松)、山口佐喜雄(やっちょろ松)

斬人斬馬剣

ざんじんざんばけん

伊藤大輔が原作・脚本・監督を担当した時代劇超大作。悪代官の圧政に苦しめられる百姓たちを救うために立ちあがった浪人の姿がヒロイックに描かれている。カットバックや移動撮影などの技法を駆使した斬新な映像表現で高い評価を受け、黒澤明の『七人の侍』を招来したとも言われている。主演の月形龍之介は「役者人生の中で最もお気に入りの一作」と語っているが、パッションがほとぼる苛烈な殺陣の迫力は筆舌に尽くし難い。莫大な費用を投じて撮影された群衆シーンは圧巻である。長らく消失したとされていたが、2002年にフィルムの一部が発見された。ついに見ることが可能になった26分間の「部分」でも、斬れば血が噴き出さんほどの脈動が感じとれる。

江戸時代後期の盗賊・鼠小僧(ねずみごぞう)次郎吉は、大名屋敷のみを狙って盗みに入り、貧しい人たちにそれを施したとされることから、後世に義賊として伝説化された存在である。その次郎吉を描いた時代小説の大家・吉川英治の小説「治郎吉格子」を、伊藤大輔が脚色、監督したのが、本作である。主演は、『忠次旅日記』の二人、大河内伝次郎と伏見直江で、伏見直江の実妹・伏見信子が共演している。あばずれた姉と一途な妹の間で、恋の駆け引きに翻弄される次郎吉。サイレント映画に不可欠な字幕を、単なる説明以上のアクセントとして画面と融合させ、アクション活劇ではない、叙情に満ちた、いなせで切ない作品に仕上がっている。現存するフィルムは、わずかな欠落があるものの、ほぼ完全なかたちで残されており、伊藤大輔の無声映画のリリズムを存分に味わうことができる傑作である。

時代劇映画のパッションのすべてが凝縮されている。

これらを見ずして日本映画は語れない。

映画と語り芸パフォーマンスのコラボレーション

活弁

忠次旅日記
斬人斬馬剣
御誂次郎吉格子



活動写真弁士 **坂本頼光** さかもとらいこう
東京生まれ。少年時代は漫画家志望で、水木しげるに傾倒。ひたすら妖怪の絵ばかり描く日々を送るも、中学二年頃より映画熱に憑かれ、やがて無声映画の説明者である活動弁士を志す。2000年、嵐寛寿郎主演『鞍馬天狗』前編の説明でデビュー。現在迄に国内外の無声映画約 120 本を説明する傍ら、絵心を生かし、イラスト、自作アニメを制作しての活弁、またアニメやCMの声優も務めている。平成 28 年度・花形演芸大賞において銀賞、30 年同金賞受賞。

三味線洋奏『忠次旅日記』**沢村美舟**
『斬人斬馬剣』『御誂次郎吉格子』**沢村まみ**

浪曲師 玉川奈々福

1995 年、二代目玉川福太郎に曲師として入門。2001 年より浪曲師として活動を始める。古典から新作浪曲まで、幅広い持ちネタを披露し、浪曲新時代を牽引するトップバッターとなる。さまざまな浪曲イベントをプロデュースし、ジャンルを超えたコラボ、エッセイの執筆、海外公演など、多岐に渡る活動を続けている。第 11 回伊丹十三賞受賞。(一社)日本浪曲協会理事。著書に「浪花節で生きてみる!」(さくら舎刊)「語り芸パースペクティブ:かたる・はなす・よむ・うなる」(晶文社刊)。



浪曲

演目は当日のお楽しみ

曲師 沢村美舟

1989 年生まれ。義太夫から三味線に興味を持ち、木馬亭に通ううち浪花節に魅せられる。2015 年、曲師のレジェンド・沢村豊子に入門、翌年初舞台に立つ。その後、メキメキと腕をあげ、今や多くの浪曲師に重用される存在である。

10月9日(日)『忠次旅日記』活弁上映 + 浪曲口演

夜7時開演 (開場 6:40 終演 9:30) **全席指定 2,800 円均一**

●全席指定券 9月24日発売(お求めはシネマ5にて)

10日(祝)『斬人斬馬剣』『御誂次郎吉格子』活弁上映

夜7時開演 (開場 6:40 終演 8:50) **全席自由 2,200 円均一**

シネマ5bis 府内町3丁目ネクサスプラザ B1F お問い合わせ: 097-536-4512

主催: 合同会社チネ・ヴィータ 作品提供: 国立映画アーカイブ  / マツダ映画社 

文化庁 令和3年度補正予算事業

ARTS2
ARTS for the future ▶ 2